

第 119 回

2021年 10 月～12 月期

「景況調査」



一般社団法人 福岡県中小企業家同友会

目次

1	回答者の属性.....	1
2	全体の景況判断	5
	(ア) 全体の景況感.....	5
	(イ) 各項目の状況.....	7
3	主要指標のクロス分析	13
	(ア) 景況感別の動向	13
	(イ) 業種別の動向.....	14
	(ウ) 従業員規模別の動向.....	14
	(エ) 本社地区別の動向	14
4	経営上の問題点	15
5	その他の調査項目	18
	(ア) 資金繰り.....	18
	(イ) 金融機関の資金繰り支援(融資)や経営改善支援などについての意見や要望	19
	(ウ) 冬の賞与について	20
	(エ) 経営相談室について	21
6	経営指針書について	22
7	自由回答項目	24
	(ア) 景況理由.....	24

1 回答者の属性

このアンケートを回答したのはどのような人々か

前回から 69 件増加の 318 件。FAX 回答（扱い）は 9 件。

第 119 回：調査時期：令和3年 12 月 1 日～12 月 27 日

回収数：318 件（令和3年 12 月 1 日会員数 2,139 名、回収率 14.9%）

方法：edoyu アンケートシステム（Web）、及び FAX

回答方法		第118回		第119回		
No.	カテゴリ	件数	割合%	件数	割合%	構成比増減
1	WEB	248	99.6	309	97.2	-2.4
2	FAX	1	0.4	9	2.8	2.4
	サンプル数（%ベース）	249	249	318	318	69
1.業種		第118回		第119回		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	構成比増減
1	製造業（生産財）	21	8.4	28	8.8	0.4
2	製造業（消費財）	18	7.2	21	6.6	-0.6
3	建設業（建築）	20	8	36	11.4	3.4
4	建設業（土木）	6	2.4	10	3.2	0.8
5	建設業（設備）	16	6.4	22	6.9	0.5
6	商業・流通業	40	16.1	32	10.1	-6
7	サービス業（対事業所）	72	28.9	93	29.3	0.4
8	サービス業（対個人）	56	22.5	75	23.7	1.2
	不明	0	0	1	0	
	サンプル数（%ベース）	249	249	318	317	68
2.従業員数		第118回		第119回		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	構成比増減
1	0名～5名	80	32.1	115	36.3	4.2
2	6名～10名	45	18.1	53	16.7	-1.4
3	11名～20名	48	19.3	61	19.2	-0.1
4	21名～30名	24	9.6	27	8.5	-1.1
5	31名～50名	22	8.8	27	8.5	-0.3
6	51名～100名	16	6.4	19	6	-0.4
7	100名以上	14	5.6	15	4.7	-0.9
	不明	0	0	1	0	0
	サンプル数（%ベース）	249	249	318	317	68

3.本社所在地		第118回		第119回		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	構成比増減
1	福岡地区	155	62.2	193	60.9	-1.3
2	北九州地区	27	10.8	50	15.8	5
3	筑豊地区	36	14.5	38	12	-2.5
4	県南地区	23	9.2	33	10.4	1.2
5	福岡県外	8	3.2	3	0.9	-2.3
	不明	0	0	1	0	0
	サンプル数 (%ベース)	249	249	318	317	68
4.所属支部		第118回		第119回		
No.	支部名	件数	(除不)%	件数	(除不)%	構成比増減
1	東支部	21	8.5	24	7.7	-0.9
2	福岡支部	10	4.1	11	3.5	-0.6
3	博多支部	24	9.8	25	8.0	-1.8
4	中央支部	13	5.3	8	2.6	-2.7
5	西支部	18	7.3	20	6.4	-0.9
6	南支部	19	7.7	23	7.3	-0.4
7	筑紫支部	7	2.8	10	3.2	0.3
8	福岡支部	22	8.9	35	11.2	2.2
9	青年支部	4	1.6	10	3.2	1.6
10	玄海支部	9	3.7	12	3.8	0.2
11	かすや支部	11	4.5	9	2.9	-1.6
12	糸島支部	5	2.0	8	2.6	0.5
13	北九州支部	20	8.1	30	9.6	1.5
14	ひびき支部	6	2.4	18	5.8	3.3
15	のおがた支部	20	8.1	18	5.8	-2.4
16	飯塚支部	13	5.3	13	4.2	-1.1
17	田川支部	2	0.8	7	2.2	1.4
18	久留米支部	10	4.1	7	2.2	-1.8
19	大牟田支部	5	2.0	15	4.8	2.8
20	有明支部	3	1.2	7	2.2	1.0
21	りょうちく支部	4	1.6	3	1.0	-0.7
	不明	3	1.2	5	1.6	0.4
	サンプル数 (%ベース)	249	246	318	313	67

4.所属支部		(S A)								
No.	カテゴリー	件数	(除不)%	(全体)%	所属会員数	会員 構成比	回収率	回収数 ランキング	回収率 ランキン グ	回答比- 構成比差分
1	東支部	24	7.7	7.5	214	10.0%	11.2%	4	16	(2.3)
2	福博支部	11	3.5	3.5	83	3.9%	13.3%	12	15	(0.4)
3	博多支部	25	8	7.9	178	8.3%	14.0%	3	14	(0.3)
4	中央支部	8	2.6	2.5	118	5.5%	6.8%	16	21	(2.9)
5	西支部	20	6.4	6.3	118	5.5%	16.9%	6	10	0.9
6	南支部	23	7.3	7.2	163	7.6%	14.1%	5	13	(0.3)
7	筑紫支部	10	3.2	3.1	66	3.1%	15.2%	13	12	0.1
8	福友支部	35	11.2	11	371	17.3%	9.4%	1	20	(6.1)
9	青年支部	10	3.2	3.1	58	2.7%	17.2%	13	9	0.5
10	玄海支部	12	3.8	3.8	116	5.4%	10.3%	11	18	(1.6)
11	かすや支部	9	2.9	2.8	45	2.1%	20.0%	15	8	0.8
12	糸島支部	8	2.6	2.5	52	2.4%	15.4%	16	11	0.2
13	北九州支部	30	9.6	9.4	132	6.2%	22.7%	2	4	3.4
14	ひびき支部	18	5.8	5.7	77	3.6%	23.4%	7	3	2.2
15	のおがた支部	18	5.8	5.7	59	2.8%	30.5%	7	1	3.0
16	飯塚支部	13	4.2	4.1	60	2.8%	21.7%	10	6	1.4
17	田川支部	7	2.2	2.2	32	1.5%	21.9%	18	5	0.7
18	久留米支部	7	2.2	2.2	70	3.3%	10.0%	18	19	(1.1)
19	大牟田支部	15	4.8	4.7	72	3.4%	20.8%	9	7	1.4
20	有明支部	7	2.2	2.2	27	1.3%	25.9%	18	2	0.9
21	りょうちく支部	3	1	0.9	28	1.3%	10.7%	21	17	(0.3)
	不明	5		1.6						
	サンプル数 (%ベース)	318	313	100	2139		14.9%			

	%	サ ン プ ル 数	製 造 業 (生 産 財)	製 造 業 (消 費 財)	建 設 業 (建 築)	建 設 業 (土 木)	建 設 業 (設 備)	商 業 ・ 流 通 業	サ ー ビ ス 業 (対 事 業 所)	サ ー ビ ス 業 (対 個 人)
	合計	317	8.8	6.6	11.4	3.2	6.9	10.1	29.3	23.7
本 社 地 区	福岡地区	193	5.2	7.8	9.3	4.7	6.7	9.8	35.2	21.2
	北九州地区	50	18.0	4.0	20.0	0.0	4.0	4.0	22.0	28.0
	筑豊地区	38	7.9	5.3	2.6	0.0	7.9	21.1	15.8	39.5
	県南地区	33	18.2	6.1	21.2	3.0	12.1	6.1	18.2	15.2
	福岡県外	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0
従 業 員 数 規 模	0名～5名	115	4.3	1.7	10.4	2.6	9.6	7.0	40.0	24.3
	6名～10名	53	7.5	7.5	18.9	0.0	7.5	11.3	20.8	26.4
	11名～20名	61	13.1	11.5	13.1	3.3	3.3	8.2	27.9	19.7
	21名～30名	27	7.4	14.8	7.4	11.1	7.4	0.0	22.2	29.6
	31名～50名	27	11.1	7.4	7.4	7.4	3.7	22.2	11.1	29.6
	51名～100名	19	15.8	10.5	5.3	0.0	10.5	26.3	26.3	5.3
	100名以上	15	20.0	0.0	6.7	0.0	0.0	13.3	33.3	26.7

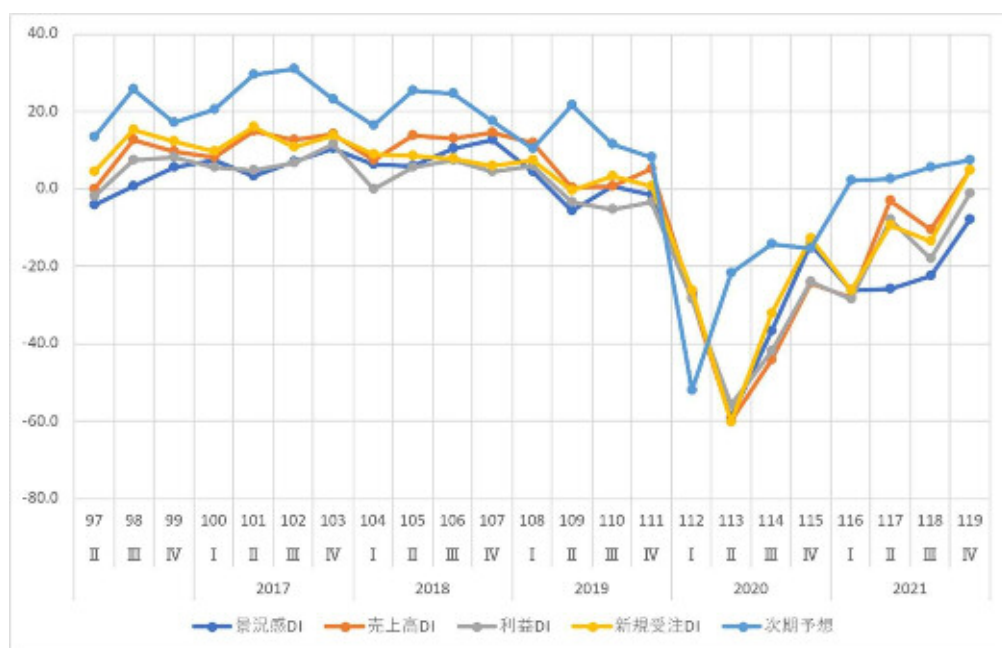
2 全体の景況判断

(ア) 全体の景況感

景況感各種 DI(よいー悪い)の状況はどうなっているか

各指標は二けた改善で売上高 DI・新規受注 DI はプラス域となった。業績指標は前回の反動ともいえるが、景況感は改善という結果となった。これは昨年末にかけて、感染症が落ち着いた為であると思われるが、2022 年の年始から感染者数の急増がみられており、オミクロン株の拡大で行動制限による経済停滞が懸念される。

全体の推移



	今回数値	前回からの変動
景況感 DI	-8.0	14.5
売上高 DI	4.8	15.3
利益 DI	-1.3	16.8
新規受注 DI	4.8	18.4
次期予想 DI	7.4	2.0

長期変動



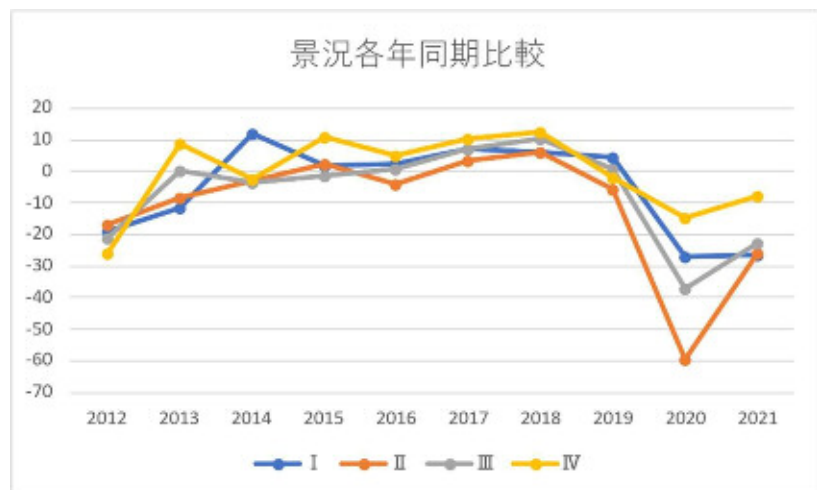
年	月	回	回収数	景況感DI	売上高DI	利益DI	新規受注DI	次期予想DI	資金繰りDI
2012	I	80	338	-18.9	-6.0	-15.5	-0.7	-3.0	-8.4
	II	81	437	-16.8	5.1	-4.2	-0.7	4.5	-6.3
	III	82	502	-20.9	-6.1	-14.5	-2.7	9.4	-14.7
	IV	83	357	-26.2	-9.4	-18.5	-10.2	-13.6	-16.1
2013	I	84	420	-11.7	-2.5	-8.6	-3.0	14.4	-15.8
	II	85	378	-8.3	2.4	-7.3	3.6	26.9	-8.3
	III	86	284	0.0	10.0	-1.9	10.5	25.9	0.7
	IV	87	290	9.0	25.8	13.0	26.4	27.3	0.3
2014	I	88	300	11.9	25.4	14.4	13.3	2.3	0.3
	II	89	319	-2.9	5.5	-3.6	-5.7	20.3	-5.5
	III	90	294	-3.4	6.5	-6.5	-0.3	15.4	0.4
	IV	91	319	-2.2	13.0	-3.1	5.5	3.5	-0.9
2015	I	92	359	2.0	4.3	1.7	5.5	15.7	-2.0
	II	93	298	2.4	7.6	5.8	8.0	22.9	7.4
	III	94	386	-1.3	6.7	4.2	11.7	21.5	-2.6
	IV	95	355	11.0	11.8	8.4	16.4	15.5	3.9
2016	I	96	424	2.1	10.0	2.9	1.4	9.8	未調査
	II	97	347	-4.1	0.0	-2.1	4.2	13.5	10.0
	III	98	449	0.5	12.6	7.2	15.1	25.7	6.3
	IV	99	382	5.5	9.5	8.0	12.2	17.2	5.0
2017	I	100	287	7.4	8.2	5.3	9.5	20.4	未調査
	II	101	409	3.4	14.9	4.7	16.0	29.5	6.9
	III	102	442	6.9	12.6	6.7	10.6	31.0	5.7
	IV	103	355	10.3	14.2	11.6	13.8	23.2	12.2
2018	I	104	358	6.1	7.3	-0.3	8.8	16.5	5.9
	II	105	382	6.0	13.7	5.3	8.6	25.2	9.5
	III	106	273	10.5	12.9	7.3	7.9	24.5	10.7
	IV	107	296	12.6	14.3	4.4	5.8	17.4	4.1
2019	I	108	301	4.3	11.9	5.7	7.5	10.4	1.0
	II	109	277	-5.9	0.4	-3.6	-0.4	21.6	3.3
	III	110	267	0.5	0.8	-5.4	3.1	11.3	8.7
	IV	111	307	-1.7	5.0	-3.6	0.6	8.1	5.9
2020	I	112	217	-27.2	-28.1	-28.6	-26.3	-52.2	
	II	113	254	-59.4	-59.9	-55.8	-60.5	-22.0	2.8
	III	114	298	-36.9	-44.1	-42.0	-32.2	-14.5	24.9
	IV	115	280	-14.5	-24.6	-24.0	-12.7	-15.4	26.4
2021	I	116	302	-26.3	-28.1	-28.4	-26.2	2.0	16.1
	II	117	265	-26.0	-3.1	-7.9	-9.4	2.6	17.9
	III	118	249	-22.5	-10.5	-18.1	-13.6	5.4	12.6
	IV	119	318	-8.0	4.8	-1.3	4.8	7.4	15.7

※資金繰りDIは73回より5段階評価

年	月	回	回収数	景況感DI	売上高DI	利益DI	新規受注DI	次期予想DI
2004	I	51	342	13	11	1	16	11
	II	52	322	12	8	-3	14	-7
	III	53	422	16	13	-1	17	-6
	IV	54	380	18	18	0	16	-10
2005	I	55	425	20	12	0	14	-4
	II	56	271	23	13	-1	16	-9
	III	57	222	21	15	4	16	-1
	IV	58	297	4	7	10	14	-15
2006	I	59	351	17	18	-1	14	-6
	II	60	291	16	15	-4	16	-10
	III	61	355	2	-6	17	6	-6
	IV	62	298	-32	-11	24	13	6
2007	I	63	301	-20	3	12	2	0
	II	64	440	24	14	20	-6	8
	III	65	450	-44	-24	36	-18	10
	IV	66	520	-43	-22	35	-21	7
2008	I	67	451	51	38	40	20	25.4
	II	68	481	-50	-43	48	-38	0
	III	69	421	-57	-45	45	-26	0
	IV	70	475	55	40	47	17	0
2009	I	71	413	-48	-39	34	-19	28
	II	72	437	-50	-18	24	-1	-3
	III	73	535	-36	15	27	14	-0.9
	IV	74	485	-34	-14	19	-9	18
2010	I	75	475	-31	-5	13	-2	15
	II	76	349	-18	-3	16	-4	24
	III	77	398	-36	-18	23	19	8.2
	IV	78	372	-34	-19	21	-6	-1.1
2011	I	79	341	-17	-9	11	0	2.7
	II	80	336	-16	-5	17	-1	-3
	III	81	437	-17	5	-4	-1	4.8
	IV	82	522	-21	-6	15	-3	24
2012	I	83	357	-26	-9	19	10	3.6
	II	84	420	-12	-3	9	-3	14.4
	III	85	370	-8	2	-7	4	26.9
	IV	86	284	0	10	-2	11	25.0
2013	I	87	280	9	28	33	26	27.3
	II	88	300	12	35	14	12	2.3
	III	89	319	-3	8	4	-6	20.3
	IV	90	284	-9	7	-7	0	18.4
2014	I	91	319	-9	13	-9	6	3.5
	II	92	359	2	4	2	6	15.7
	III	93	298	2	8	6	8	22.9
	IV	94	382	-1	7	4	12	21.5
2015	I	95	355	11	12	8	16	15.5
	II	96	424	2	10	3	1	9.8
	III	97	347	-4	0	-2	4	13.5
	IV	98	449	0	13	7	15	25.7
2016	I	99	382	6	9	8	12	17.2
	II	100	287	7	8	5	10	20.4
	III	101	420	3	15	5	16	25.4
	IV	102	442	7	13	7	11	31
2017	I	103	355	10	14	12	14	29.2
	II	104	250	6	7	0	9	16.5
	III	105	382	6	14	5	9	25.2
	IV	106	273	11	13	7	8	24.6
2018	I	107	295	12	14	4	6	17.4
	II	108	301	4	12	6	8	10.4
	III	109	277	-6	0	-4	0	21.6
	IV	110	267	0	1	-5	3	11.3
2019	I	111	307	-2	5	-4	1	8.1
	II	112	217	-27	-28	29	-26	-2.2
	III	113	254	-59	-59	56	-61	-2.5
	IV	114	298	-37	-44	42	-32	-4.5
2020	I	115	280	-18	-25	24	-13	-5.4
	II	116	302	-26	-28	26	-26	2
	III	117	265	-26	-3	-6	-9	-2.6
	IV	118	249	-23	-11	18	-14	5.4
2021	I	119	318	-8	5	-1	6	15.7

2004 年第IV期(51 回)からの長期推移イメージは右上表のとおり。また景況感は現況判断のため、同期比較すると以下のような推移となっている。

	I	II	III	IV
2012	-19	-17	-21	-26
2013	-12	-8.3	0	9
2014	11.9	-2.9	-3.4	-2.2
2015	2	2.4	-1.3	11
2016	2.1	-4.1	0.5	5
2017	7.4	3.4	6.9	10.3
2018	6.1	6	10.5	12.6
2019	4.3	-5.9	0.5	-1.7
2020	-27	-59	-37	-15
2021	-26	-26	-23	-8

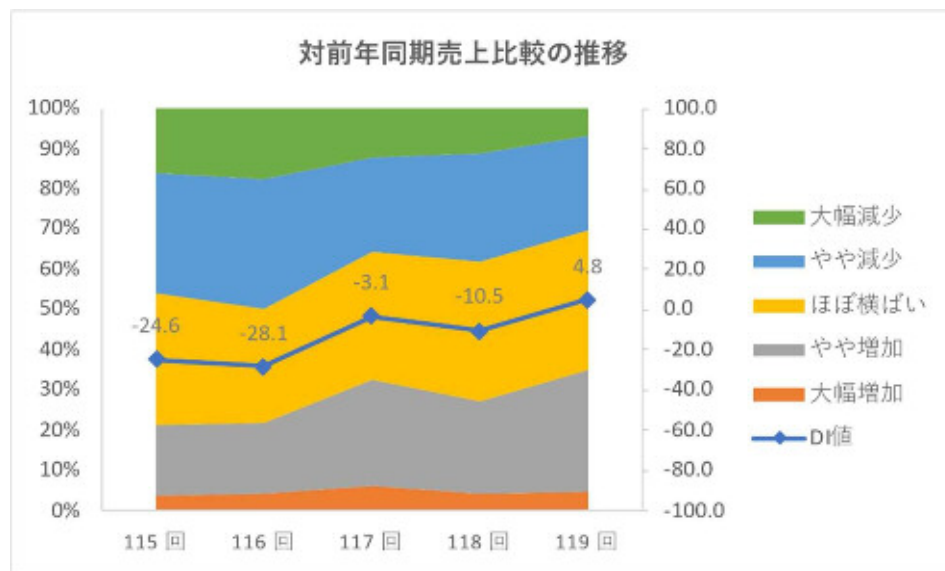


売上高 DI

2021 年 10～12 月期の貴社の「売上高」について、前年同期(2020 年 10～12 月期)に比較してお答えください。

波打ちながら改善を見せており、前回より 15.3pt 上昇の 4.8pt となった。「横這い」割合はほぼ動いておらず改善を示した。

6.対前年同期売上高比較				第118回	DI値	-10.5	第119回	DI値	4.8	+15.3
No.	カテゴリ	件数	(除不)%		件数	(除不)%	増減			
1	大幅増加	10	4.1	27.4	15	4.8	+0.7	+7.7		
2	やや増加	57	23.3		94	30.3	+7.0			
3	ほぼ横ばい	85	34.7	34.7	107	34.5	-0.2			
4	やや減少	65	26.5	37.9	73	23.5	-3.0	-7.6		
5	大幅減少	28	11.4		21	6.8	-4.6			
	不明	4			8					
	サンプル数 (%ベース)	249	245		318	310	65			



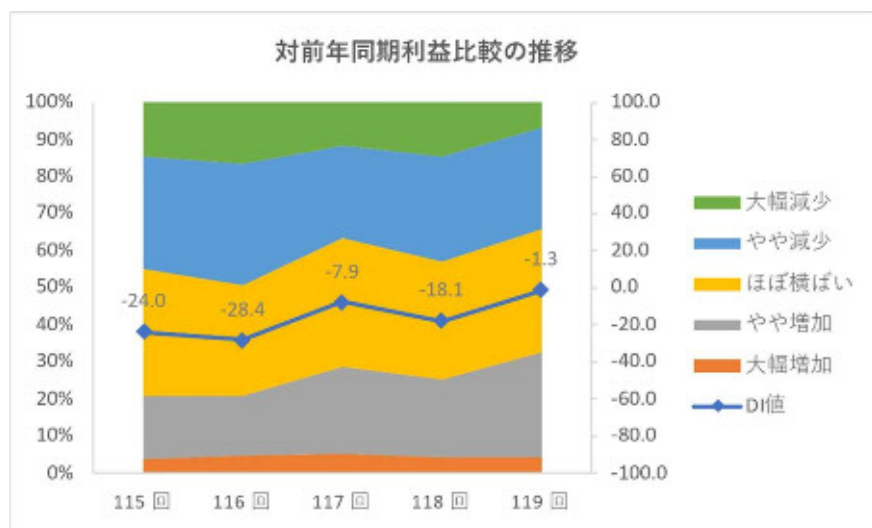
	景況理由 pickup「売上」	業種
よい	新商品販売による売上増	サービス業(対個人)
普通	新商品の開発・販売による売上増加	商業・流通業
普通	昨年のコロナで売上げが上がったが、今年は例年並み。	商業・流通業
悪い	大口ユーザーの売上大幅減	製造業(消費財)
悪い	コロナにより売上げ下がった。	建設業(設備)

利益 DI

2021 年 10～12 月期の貴社の「利益」について、前年同期(2020 年 10～12 月期)に比較してお答えください。

20.5pt 改善、10.2pt 悪化の後、今回は 16.8pt 改善で-1.3 と乱高下している。「横這い」はあまり変動せず改善を示した。

7.対前年同期利益比較			第118回	DI値	-18.1	第119回	DI値	-1.3	+16.8
No.	カテゴリ	件数	(除不)%			件数	(除不)%	増減	
1	大幅増加	11	4.5	25.1		13	4.2	-0.3	+7.7
2	やや増加	50	20.6			89	28.6	+8.0	
3	ほぼ横ばい	77	31.7	31.7	→	103	33.1	+1.4	
4	やや減少	70	28.8	43.2		85	27.3	-1.5	-9.1
5	大幅減少	35	14.4			21	6.8	-7.6	
	不明	6				7			
	サンプル数 (%ベース)	249	243			318	311	68	



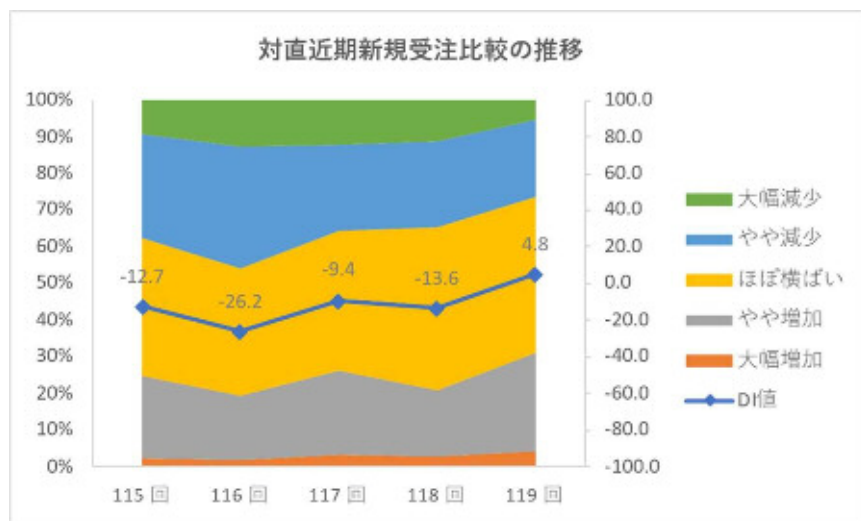
	景況理由 Pickup「益」	
よい	手間請けの仕事が多くなり、忙しいが売り上げ、利益共横ばいになっている	建設業(建築)
よい	今年の4月に新入社員を2名入れて会社内が活気づき、全体的に明るく、また、会社として利益が出たら社員に還元するように方針転換したことが良かった。	建設業(建築)
悪い	昨今、半導体だけに限らず様々な物が不足しており、それに起因して機械の製造が止まったり遅延したりといったケースが多い。その結果、受注の伸びが鈍かった所に原材料の高騰もあり、利益が伸びていない。	製造業(生産財)
悪い	利益が出せるところまで追いついていない。緊急事態宣言が解除された10月初旬はほとんど動きが見られなかった。また、年末の繁盛期を迎えるのにも関わらず、様子見の会社が多いように感じた。新規に関しては、営業が積極的なアプローチがし辛い空気感がある。	サービス業(対事業所)

新規受注 DI

2021 年 10～12 月期の貴社の「新規受注」について、直近期(2021 年 7～9 月期)に比較してお答えください。

18.4pt 改善の 4.8 となり、「悪い」側の減少幅以上に「よい」側が増加している。

8.対直近期新規受注比較			第118回	DI値	-13.6	第119回	DI値	4.8	+18.4
No.	カテゴリ	件数	(除不)%			件数	(除不)%	増減	
1	大幅増加	7	2.9	20.9		14	4.5	+1.6	+10.4
2	やや増加	44	18			84	26.8	+8.8	
3	ほぼ横ばい	109	44.7	44.7	→	132	42.2	-2.5	
4	やや減少	57	23.4	34.5		66	21.1	-2.3	-8.0
5	大幅減少	27	11.1			17	5.4	-5.7	
	不明	5				5			
	サンプル数 (%ベース)	249	244			318	313	69	



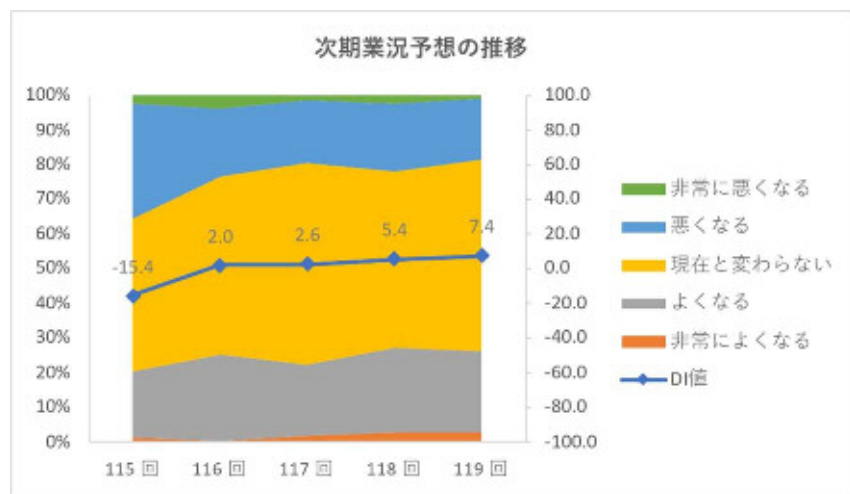
	景況理由 pickup「受注」	
よい	客先からの受注が増えたから	製造業(生産財)
よい	全体的に製造業の受注が増えています。	製造業(生産財)
よい	公共工事と災害関連工事受注のため。	建設業(建築)
悪い	資材高騰、価格競争により新規受注が出来なかった	建設業(建築)
悪い	受注は予定通りで推移しているが、新型コロナウイルス感染により昨前半に受注ができなかった影響が現在も続いているため。	建設業(設備)
悪い	飲食店や催事業者の受注が減少した。	商業・流通業

次期予想 DI

2022 年 1~3 月期の貴社の業況をどのように予想されていますか。

「悪い」側が減少し「現在と変わらない」が増加しており、業況が戻ってくるという見通しを示したが、感染拡大で状況は変わってくるとされる。

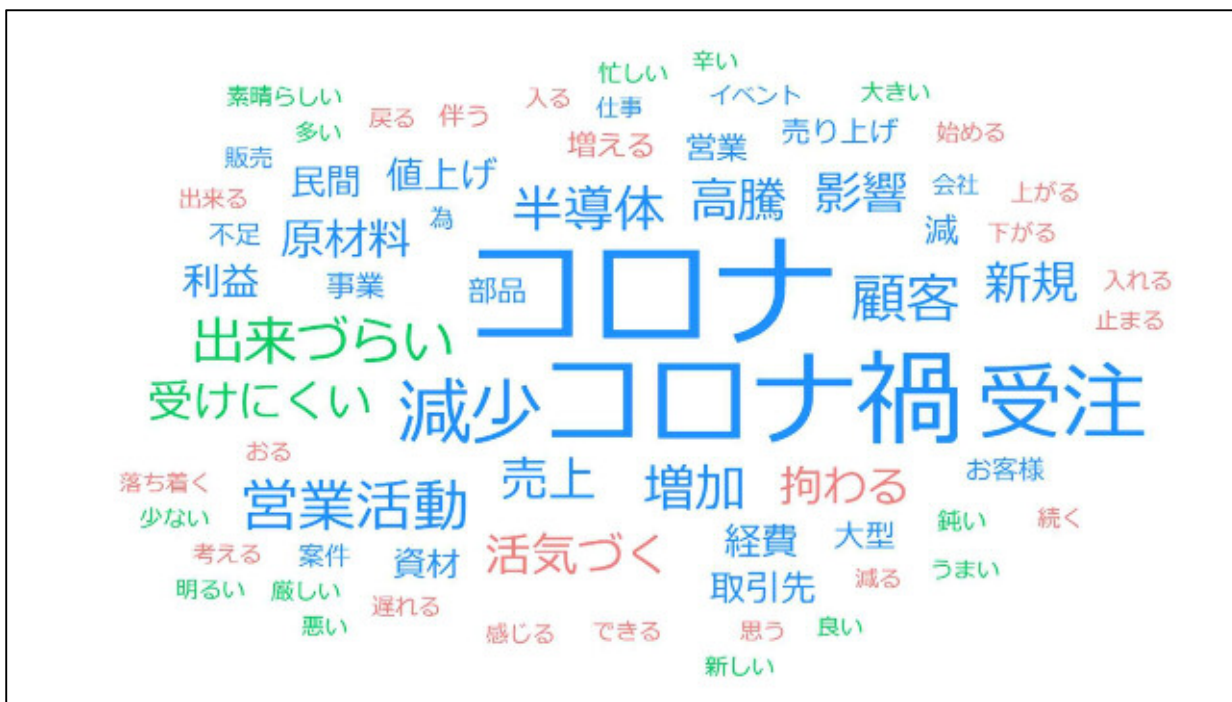
10.次期業況予想		第118回	DI値	5.4	第119回	DI値	7.4	+2.0
No.	カテゴリ	件数	(除不)%		件数	(除不)%		増減
1	非常によくなる	7	2.9	27.4	9	2.9	26.1	+0.0
2	よくなる	60	24.5		71	23.2		-1.3
3	現在と変わらない	124	50.6	50.6	169	55.2	55.2	+4.6
4	悪くなる	48	19.6	22	55	18	18.7	-1.6
5	非常に悪くなる	6	2.4		2	0.7		-1.7
	不明	4			12			
	サンプル数 (%ベース)	249	245		318	306		61



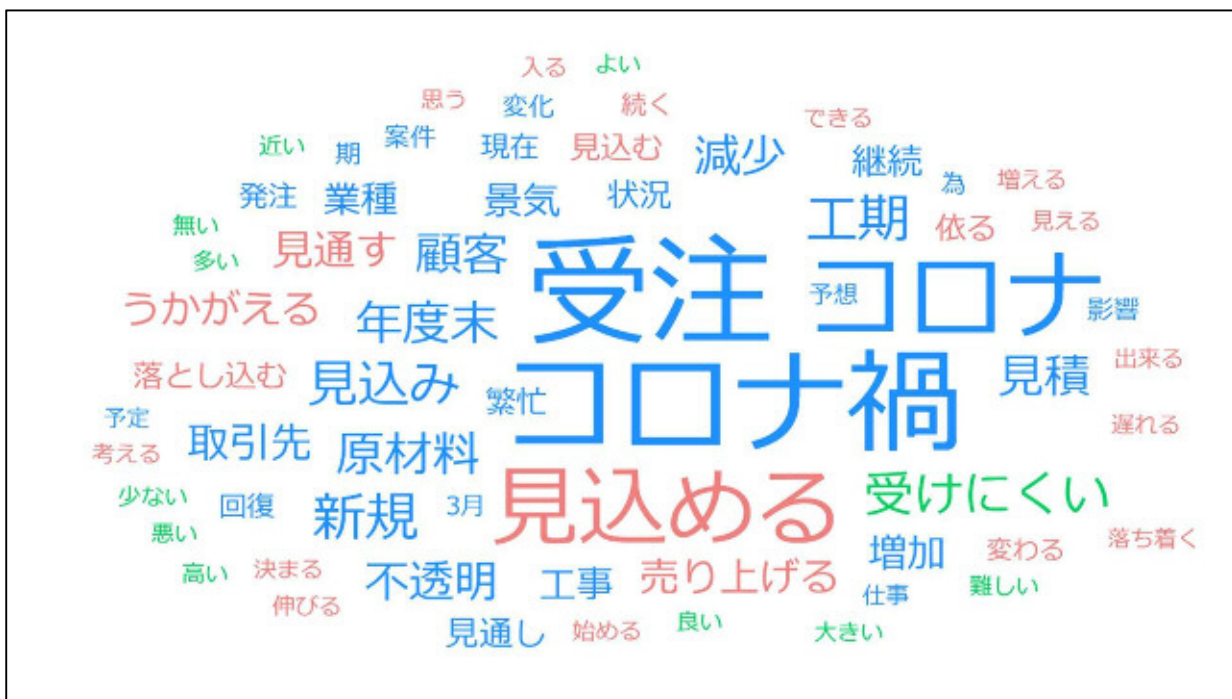
10.次期業況予想 × 5.今期景況判断

上段:度数 下段:%		10.次期業況予想					
		合計	非常によくなる	よくなる	現在と変わらない	悪くなる	非常に悪くなる
5.今期景況判断	合計	301 100.0	9 3.0	71 23.6	166 55.1	53 17.6	2 0.7
	非常に良い	13 100.0	6 46.2	2 15.4	3 23.1	2 15.4	-
	よい	58 100.0	1 1.7	25 43.1	26 44.8	6 10.3	-
	普通	129 100.0	1 0.8	27 20.9	86 66.7	15 11.6	-
	悪い	88 100.0	1 1.1	14 15.9	46 52.3	25 28.4	2 2.3
	非常に悪い	13 100.0	-	3 23.1	5 38.5	5 38.5	-

今期景況理由



次期景況予想理由



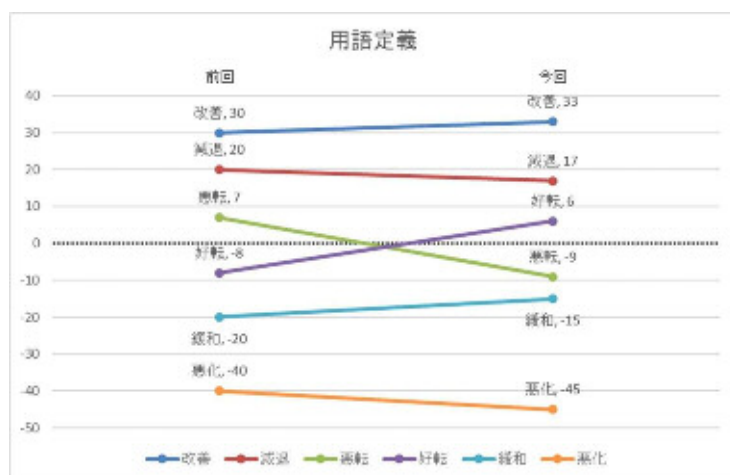
※ユーザーローカル テキストマイニングツール(<https://textmining.userlocal.jp/>)

)による分析

※「スコア」は TF-IDF 法による特徴重みづけ処理による

3 主要指標のクロス分析

			DI値増加	DI値減少		
説明	DI値が正	改善の回答が多い	改善増進	改善減退	0か負から正	好転
	DI値が負	悪化の回答が多い	悪化緩和	悪化	0か正から負	悪転



本クロス分析では「よい」-「悪い」の差である DI 値を前回数値と比較した変動と合わせて評価している。

以下の表中カッコ内は前回との差であり太字は前回 DI 値から符号反転したことを示している。

DI 値がプラスである場合はよい回答が多いことを示しているため、前回より値が減少してもプラスである限りは全体の趨勢としてはまだ良であることを表している。

(ア) 景況感別の動向

景況感の良し悪しはその他の指標とどのような関係にあったか

各種指標は景況が「非常に悪い」層も含めて改善がみられる新規受注 DI がすべての層で改善しているが、売上・利益は「普通」の層であまり伸びず、次期予想 DI は「よい」側は前回より下がっており、上位層では一通り成果が出た一方で改善期待がやや落ち着いている。

	第119回	景況件数	景況DI構成比	売上高DI値	利益DI値	新規受注DI値	次期予想DI値	件単位
	有効回答数	312	100%	305	307	309	301	
今 期 景 況 感	非常に良い	13	4.2%(3.4)	100(0)	83.3(-16.7)	84.6(84.6)	46.2(-53.8)	7.7
	よい	63	20.2%(3.5)	83.6(17.8)	81(15.1)	70.5(2.2)	34.5(-18)	1.6
	普通	135	43.3%(0.9)	6.1(-1.7)	1.5(-0.4)	5.2(9.1)	10.1(4.3)	0.7
	悪い	88	28.2%(-0.8)	-59.3(-0.1)	-67(5.8)	-45.5(0.3)	-13.6(3.3)	1.1
	非常に悪い	13	4.2%(-6.8)	-69.2(8.5)	-84.6(4.3)	-61.5(30.8)	-15.4(-3.8)	7.7

(イ) 業種別の動向

業種別の各指標の状況はどのようなであったか

全体的に改善しており、プラス域も広がっているが、製造業（消費財）に悪化がみられた。これは原材料仕入れ難、仕入価格上昇が影響していると考えられる。また対個人サービス業も次期予想は悪転している。

	第119回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
	クロス回答数		311(66)	309(64)	310(67)	312(68)	305(60)	
	全体	317	-8(14.4)	5.2(15.8)	-1.3(16.8)	5.1(18.7)	7.5(2.2)	0.3
業 種	製造業（生産財）	28	-7.1(2.9)	14.8(19.6)	7.1(7.1)	7.1(11.9)	17.9(8.3)	3.6
	製造業（消費財）	21	-52.4(-13.5)	-35(-18.3)	-50(-22.2)	-23.8(20.6)	-14.3(-20.2)	4.8
	建設業（建築）	36	14.3(39.3)	16.7(56.7)	2.9(42.9)	11.4(11.4)	28.1(18.1)	2.8
	建設業（土木）	10	0(16.7)	30(10)	10(26.7)	20(-13.3)	33.3(13.3)	10.0
	建設業（設備）	22	9.1(9.1)	4.8(17.3)	13.6(32.4)	22.7(16.5)	9.1(9.1)	4.5
	商業・流通業	32	-25.8(14.2)	0(17.5)	-21.9(15)	-16.1(3.9)	-10(-7.5)	3.1
	サービス業（対事業所）	93	-1.1(20)	15.2(15.2)	15.1(16.5)	22.6(36.7)	12.2(9.4)	1.1
	サービス業（対個人）	75	-13.7(3)	-7(4.1)	-11.4(11.2)	-11.1(5.9)	-1.4(-12.1)	1.3

(ウ) 従業員規模別の動向

従業員規模の大小は各指標でどのような差が表れたか

景況 DI がプラス域であったのは 100 名以上のみながら、それ以下の層も改善はした。受注 DI は好転したが、10 名以下で次期予想が悪化している。

	第119回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
	クロス回答数		311(66)	309(64)	310(67)	312(68)	305(60)	
	全体	317	-8(14.4)	5.2(15.8)	-1.3(16.8)	5.1(18.7)	7.5(2.2)	0.3
従 業 員 規 模	0名～5名	115	-8.9(8.8)	-6.3(10.4)	-8.8(10.2)	4.4(19.8)	5.3(-3.8)	0.9
	6名～10名	53	-3.9(22.7)	5.9(23.7)	-4(29.3)	1.9(19.7)	-14(-16.2)	1.9
	11名～20名	61	-14.8(20.7)	6.7(17.1)	0(14.6)	0(21.3)	19(14.7)	1.6
	21名～30名	27	-11.1(10.6)	7.4(19.9)	-3.7(0.6)	3.8(20.5)	19.2(2.6)	3.7
	31名～50名	27	-7.4(1.7)	0(4.5)	7.4(40.7)	3.8(3.8)	23.1(36.7)	3.7
	51名～100名	19	-15.8(3)	31.6(25.3)	0(0)	15.8(15.8)	-5.6(0.7)	5.3
	100名以上	15	28.6(45.2)	61.5(36.5)	50(40.9)	35.7(27.4)	21.4(0)	6.7

(エ) 本社地区別の動向

地区別ではどのような状況であったか

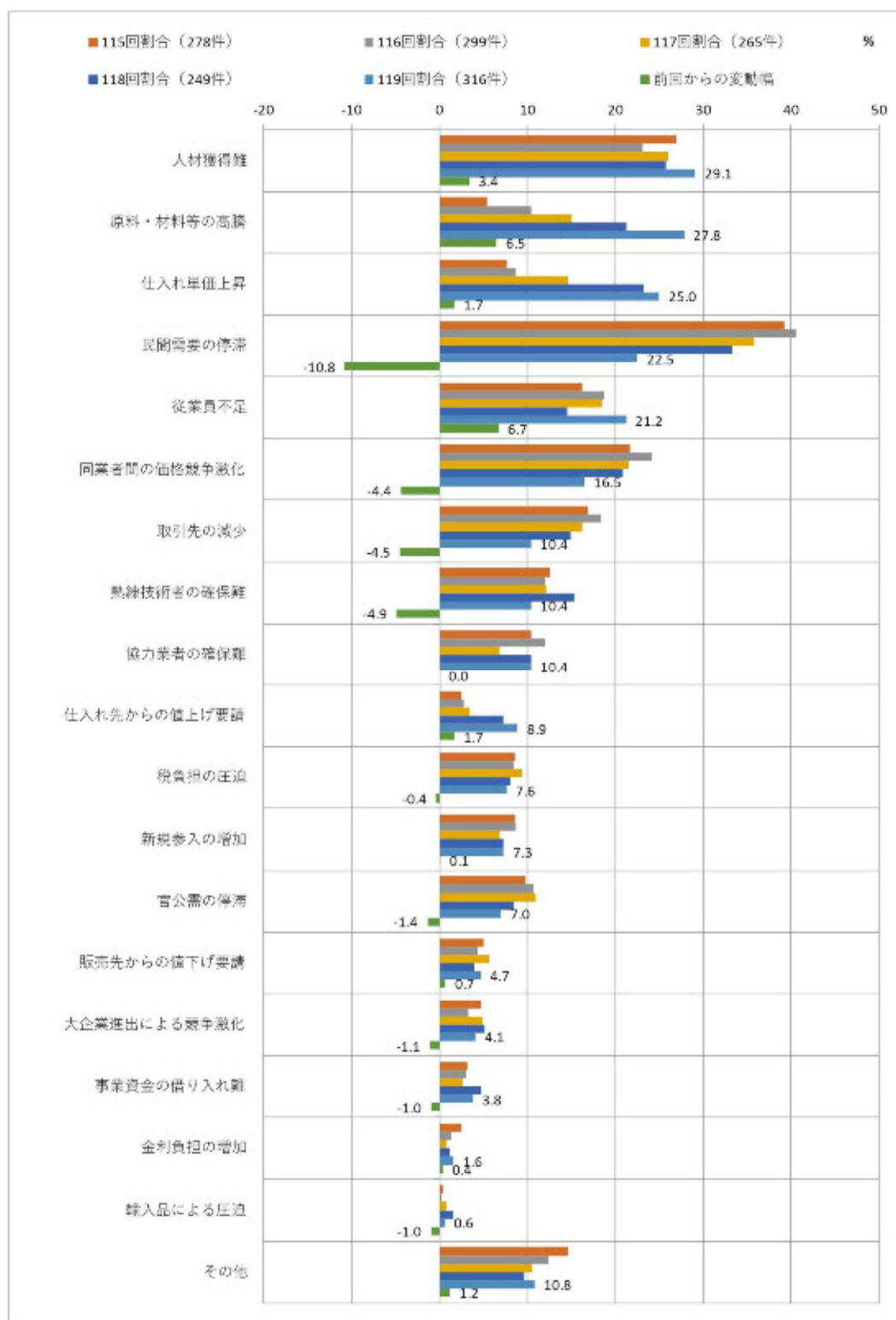
多くの指標で改善増進または好転している。

	第119回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
	クロス回答数		311(66)	309(64)	310(67)	312(68)	305(60)	
	全体	317	-8(14.4)	5.2(15.8)	-1.3(16.8)	5.1(18.7)	7.5(2.2)	0.3
本 社 地 区	福岡地区	193	-14.4(9.3)	-2.7(11.9)	-4.7(17.9)	2.1(16.7)	8(0.8)	0.5
	北九州地区	50	-8.2(25.2)	10.2(36.1)	-4.2(18.9)	0(19.2)	-2.2(-2.2)	2.0
	筑豊地区	38	5.3(21.9)	8.1(13.7)	5.6(16.7)	18.9(35.6)	7.9(21.8)	2.6
	県南地区	33	12.1(25.8)	33.3(24.6)	15.2(19.5)	12.1(16.5)	16.1(7.4)	3.0
	福岡県外	3	0(12.5)	66.7(29.2)	0(-12.5)	33.3(20.8)	33.3(-29.2)	33.3

4 経営上の問題点

貴社において、現在の経営上の問題点の内、特に厳しいもの3項目までを選んでご回答ください。

民間需要停滞は順位を下げ、人材獲得難・従業員不足や原材料高騰が上昇している。



■問題点自由回答

1. 認知度の低さ
2. 会社を新しい体制に変えることに時間がかかる
3. コロナ禍のため
4. 人材教育
5. 原材料の供給不安定。
6. 今後は需要がなくなるのではないかと、支払い能力がなくなる。
7. 必要とする人材が採用できない。
8. 人材育成の停滞、引き合いの減少
9. 設備投資

本社地区別の経営上の問題点						
%	全体	福岡地区	北九州地区	筑豊地区	県南地区	福岡県外
回答件数	315	191	50	38	33	3
人材獲得難	28.9	24.1	38.0	34.2	33.3	66.7
原料・材料等の高騰	27.9	26.7	18.0	34.2	45.5	0.0
仕入れ単価上昇	25.1	23.0	20.0	28.9	39.4	33.3
民間需要の停滞	22.5	25.1	18.0	21.1	15.2	33.3
従業員不足	21.3	21.5	24.0	13.2	27.3	0.0
同業者間の価格競争激化	16.5	20.4	16.0	10.5	3.0	0.0
取引先の減少	10.5	13.1	4.0	10.5	6.1	0.0
熟練技術者の確保難	10.5	9.4	6.0	15.8	18.2	0.0
協力業者の確保難	10.2	9.4	14.0	2.6	18.2	0.0
仕入れ先からの値上げ要請	8.9	7.3	10.0	7.9	18.2	0.0
税負担の圧迫	7.6	7.3	10.0	10.5	0.0	33.3
新規参入の増加	7.3	8.4	6.0	7.9	3.0	0.0
官公需の停滞	7.0	9.4	4.0	5.3	0.0	0.0
販売先からの値下げ要請	4.8	5.2	4.0	5.3	3.0	0.0
大企業進出による競争激化	4.1	5.2	2.0	5.3	0.0	0.0
事業資金の借り入れ難	3.8	4.7	0.0	5.3	3.0	0.0
金利負担の増加	1.6	1.6	2.0	0.0	0.0	33.3
輸入品による圧迫	0.6	0.5	0.0	0.0	3.0	0.0
その他	10.8	11.0	14.0	7.9	9.1	0.0
各業種別回答数に対するパーセント						
色付きセルは業種別の上位五項目						

業種別の経営上の問題点									
%	全体	製造業 (生産財)	製造業 (消費財)	建設業 (建築)	建設業 (土木)	建設業 (設備)	商業・ 流通業	サービス業 (対事業所)	サービス業 (対個人)
回答件数	315	28	21	36	10	22	31	93	74
人材獲得難	28.9	42.9	9.5	27.8	20.0	36.4	19.4	25.8	36.5
原料・材料等の高騰	27.9	60.7	47.6	50.0	50.0	40.9	29.0	6.5	18.9
仕入れ単価上昇	25.1	39.3	19.0	47.2	30.0	40.9	48.4	9.7	14.9
民間需要の停滞	22.5	21.4	66.7	11.1	10.0	4.5	25.8	26.9	16.2
従業員不足	21.3	17.9	9.5	30.6	10.0	36.4	9.7	21.5	23.0
同業者間の価格競争激化	16.5	3.6	23.8	19.4	20.0	13.6	19.4	19.4	13.5
取引先の減少	10.5	3.6	33.3	0.0	0.0	0.0	12.9	14.0	10.8
熟練技術者の確保難	10.5	7.1	9.5	16.7	40.0	13.6	0.0	11.8	6.8
協力業者の確保難	10.2	7.1	4.8	33.3	30.0	27.3	0.0	8.6	0.0
仕入れ先からの値上げ要請	8.9	10.7	4.8	16.7	0.0	22.7	25.8	2.2	4.1
税負担の圧迫	7.6	0.0	4.8	0.0	0.0	13.6	0.0	12.9	10.8
新規参入の増加	7.3	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	12.9	9.7	12.2
官公需の停滞	7.0	10.7	9.5	2.8	40.0	0.0	6.5	9.7	1.4
販売先からの値下げ要請	4.8	3.6	9.5	0.0	0.0	9.1	6.5	7.5	1.4
大企業進出による競争激化	4.1	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	22.6	3.2	2.7
事業資金の借り入れ難	3.8	0.0	4.8	0.0	0.0	9.1	0.0	2.2	9.5
金利負担の増加	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	1.1	4.1
輸入品による圧迫	0.6	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0
その他	10.8	3.6	4.8	5.6	10.0	9.1	3.2	12.9	18.9
各業種別回答数に対するパーセント									
色付きセルは業種別の上位五項目									

第1位の人材獲得難、第5位の従業員不足と、人の確保が大きな課題となっている。売上げが戻りつつあるなか、人材の確保が出来ずに機会損失のほか、人件費増にもつながっていると思われる。また、原材料等の高騰という課題がこの一年で約6倍に増えており、人件費増と併せて収益を圧迫する要因になる。これらは感染症の影響にかかわらず、すぐさまには解決は難しく、恒常的な課題と捉えて抜本的な対策が各社に求められる。さらに、昨年末にかけて感染症の落ち着きにより、民間需要停滞は順位を下げたが、今後のオミクロン株の拡大による影響が懸念される。

5 その他の調査項目

(ア) 資金繰り

	11.資金繰り	第118回DI	12.6	第119回DI	15.7	3.1
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	構成比増減
1	余裕あり	50	20.4	57	17.9	-2.5
2	やや余裕あり	41	16.7	60	18.9	2.2
3	普通	94	38.4	134	42.1	3.7
4	やや窮屈	47	19.2	55	17.3	-1.9
5	窮屈	13	5.3	12	3.8	-1.5
	不明	4	0	0	0	0.0
	サンプル数 (%ベース)	249	245	318	318	73

	14.資金繰り難の原因	(M A)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	売上不振	46	68.7	68.7
2	原材料の高騰	13	19.4	19.4
3	借入据置期間の終了による返済開始	3	4.5	4.5
4	融資が受けられない	5	7.5	7.5
5	その他	12	17.9	17.9
	不明	0		0
	サンプル数 (%ベース)	67	67	100

資金繰り難の理由

1. 特に借り入れを行っていない ◆(製造業(生産財) 6名～10名)
2. 人件費増 ◆(商業・流通業 31名～50名)
3. 入金より支払いが先。 ◆(建設業(設備) 6名～10名)
4. 資材入荷遅れ、人材不足 ◆(製造業(消費財) 21名～30名)
5. 既になかなりの額を借入しているから。 ◆(商業・流通業 31名～50名)
6. 回収までの期間が長い ◆(製造業(消費財) 11名～20名)
7. 個人だから ◆(建設業(設備) 0名～5名)

資金繰りについては、前回(第118回)と大きな変化は見られず、回答者の2割が窮屈、やや窮屈となっている。経済活動の正常化が進むまでの更なる金融政策支援の必要性は提起しつつも、売上増、利益増をどう自社で実現するか、自社の持っている経営資源を改めて見つめ直し、具体的な行動に移していかなければならない。

無利子無担保の申込期間延長の利用

	15.無利子無担保申込延長	(S A)		
No.	カテゴリー	件数	(除不)%	(全体)%
1	利用する	51	17	16
2	利用しない	249	83	78.3
	不明	18		5.7
	サンプル数 (%ベース)	318	300	100

(イ) 金融機関の資金繰り支援(融資)や経営改善支援などについての意見や要望

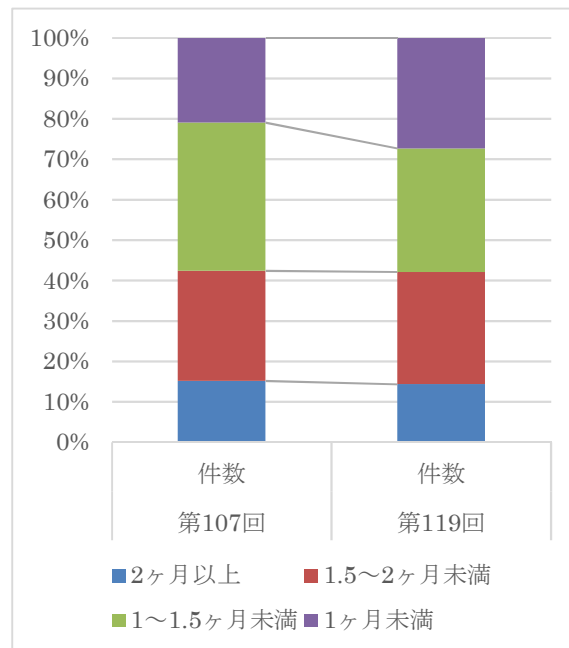
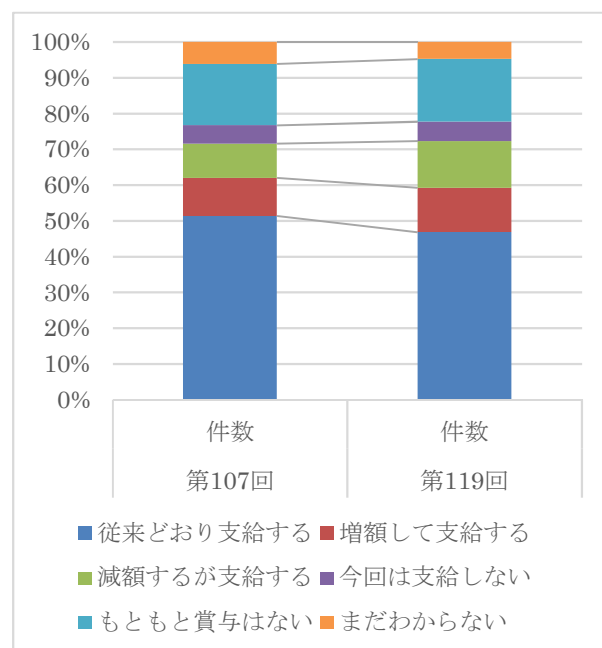
- 2度利用している、この2年間で。◆(サービス業(対個人) 6名～10名)
- 3月期の決算が減収、減益の見込みだが将来を見極め、説明責任を果たす。◆(製造業(消費財) 21名～30名)
- 返済猶予の期間延長 ◆(サービス業(対事業所) 100名以上)
- 使える借入れはすべて借り尽くしたという感じ。追加融資の可能性があるか、専門のコンサルにも相談に行った。これから、再度交渉に行く予定。◆(サービス業(対事業所) 11名～20名)
- コロナ対応緊急融資の借換え時の利子補給、保証料補填を実施していただきたい。◆(製造業(消費財) 31名～50名)
- 金融機関へは伴奏型金融支援をもっと具体的な対策を期待します。◆(サービス業(対事業所) 100名以上)
- 現在受けているので、これから支払いが大変になる。◆(サービス業(対事業所) 11名～20名)
- 現状は、余裕があり必要なし ◆(建設業(設備) 6名～10名)
- コロナ禍での資金繰り支援策による、実質無利子での借入はできるが、結果、自己資本比率が下がり、先々の経営に影響が及ぶ ◆(サービス業(対事業所) 51名～100名)
- 人材紹介 ◆(製造業(消費財) 21名～30名)
- 新規融資よりも、既往債務の無利子化や債務圧縮・免除等の負担減策を講じてほしい。◆(商業・流通業 11名～20名)
- 既に借入している為。◆(建設業(建築) 6名～10名)
- 無金利無担保はそのまま続けてほしい ◆(製造業(消費財) 11名～20名)
- 運転資金 ◆(サービス業(対個人) 0名～5名)

(ウ) 冬の賞与について

	17.冬の賞与予定	(S A)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	従来どおり支給する	147	46.8	46.2
2	増額して支給する	39	12.4	12.3
3	減額するが支給する	41	13.1	12.9
4	今回は支給しない	17	5.4	5.3
5	もともと賞与はない	55	17.5	17.3
6	まだわからない	15	4.8	4.7
	不明	4		1.3
	サンプル数 (%ベース)	318	314	100

	18.支給基準	(S A)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	2ヶ月以上	31	14.4	13.7
2	1.5～2ヶ月未満	60	27.8	26.4
3	1～1.5ヶ月未満	66	30.6	29.1
4	1ヶ月未満	59	27.3	26
	不明	11		4.8
	サンプル数 (%ベース)	227	216	100

第107回(2018年10-12月期)との比較



(エ) 経営相談室について

	21.経営相談室について	(S A)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	知っている	181	58.6	56.9
2	知らない	128	41.4	40.3
	不明	9		2.8
	サンプル数 (%ベース)	318	309	100

	22.経営に関する相談先	(S A)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	ない	32	10.1	10.1
2	顧問の士業	81	25.6	25.5
3	同友会	149	47	46.9
4	その他	55	17.4	17.3
	不明	1		0.3
	サンプル数 (%ベース)	318	317	100

相談先その他

1. 税理士。弊社の事業そのものである。◆(サービス業(対事業所) 0名～5名)
2. 同友会以外の異業種交流会 ◆(製造業(生産財) 11名～20名)
3. 仲間 ◆(製造業(生産財) 31名～50名)
4. 主人。◆(サービス業(対事業所) 0名～5名)
5. 恩師の先輩。◆(建設業(設備) 6名～10名)
6. 師と仰ぐ経営者がいます。◆(サービス業(対個人) 0名～5名)
7. 税理士、銀行 ◆(製造業(消費財) 21名～30名)
8. 民主商工会 ◆(建設業(建築) 11名～20名)

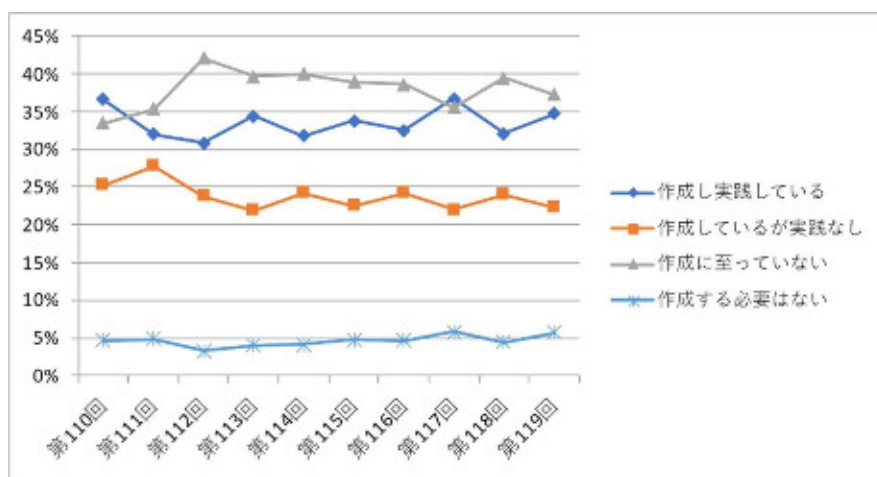
経営に関する相談先として、回答の約半数は同友会という回答結果であり、その多くは支部などの身近な仲間であると推察される。一方で、経営に関する相談先が「ない」とする回答もあり、各支部において普段より経営に関する悩みを話し合える場や環境が出来ているか確認しておく必要がある。

6 経営指針書について

作成の状況

経営指針書を作成していますか。また、指針書に基づいた経営を実践していますか。

経営指針書の作成と実践		第118回		第119回		増減
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	
1	作成し実践している	79	32.1	109	34.7	2.6
2	作成しているが実践なし	59	24	70	22.3	-1.7
3	作成に至っていない	97	39.4	117	37.3	-2.1
4	作成する必要はない	11	4.5	18	5.7	1.2
	不明	3	0	4	0	
	サンプル数 (%ベース)	249	246	318	314	68



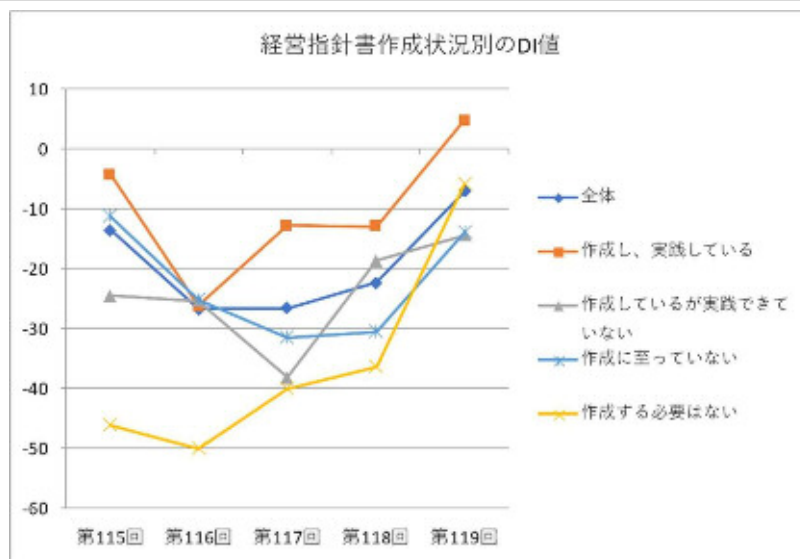
検証状況

「作成し実践している」と回答された方にお尋ねします。毎月、検証(チェック)していますか。

20.経営指針書の検証について (S A)				
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	毎月検証している	41	38.7	12.9
2	毎月ではないが検証している	39	36.8	12.3
3	年に1回は検証している	23	21.7	7.2
4	全く検証していない	3	2.8	0.9
	不明	212		66.7
	サンプル数 (%ベース)	318	106	100

経営指針書の成果

経営指針書の活用は今期景況感の回答にどのように関係しているか



各指標 DI の状況

	第119回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
		クロス回答数	308(66)	306(64)	307(67)	309(68)	302(59)	
全体		308	-7.1(15.2)	5.6(15.9)	-1(16.9)	5.8(19.1)	7.6(1.9)	0.3
指	作成し、実践している	107	4.7(17.7)	27.4(24.8)	12.4(19.1)	18.7(13.5)	18.4(-6.9)	0.9
針	作成しているが実践でき	69	-14.5(4.2)	-11.6(-1.2)	-8.6(8.4)	-12.9(-0.6)	-4.4(-1)	1.4
書	作成に至っていない	115	-13.9(16.6)	-4.4(16.4)	-10.5(17.6)	3.5(31.6)	4.4(8.6)	0.9
別	作成する必要はない	17	-5.9(30.5)	5.9(15)	11.1(20.2)	16.7(34.8)	11.8(11.8)	5.9

7 自由回答項目

(ア) 景況理由

	5. 今期景況 判断	1. 業種	2. 従業員数	3. 本 社 所在地	9. 景況判断理由
1	非常に良い	製造業(生産財)	11 名～20 名	筑豊	半導体業界の活性化
2	非常に良い	製造業(生産財)	100 名以上	福岡	①各社の案件が動き始めた。②営業力。
3	非常に良い	建設業(建築)	11 名～20 名	福岡	コロナで停滞していた需要が 2021 年夏ごろから高まったため
4	非常に良い	建設業(土木)	11 名～20 名	福岡	社員のモチベーションが上がりました。社員教育の素晴らしさを感じました。
5	非常に良い	建設業(設備)	0 名～5 名	福岡	官庁受注
6	非常に良い	建設業(設備)	6 名～10 名	福岡	入札案件、お客様の設備投資。
7	非常に良い	商業・流通業	51 名～100 名	筑豊	薄利多売に伴う資材の値上げを製品単価に転嫁できず人件費の増加
8	非常に良い	サービス業(対事業所)	0 名～5 名	福岡	値上げをした
9	非常に良い	サービス業(対事業所)	0 名～5 名	福岡	受注が増えたから
10	非常に良い	サービス業(対個人)	11 名～20 名	筑豊	社員一同と課題を洗い出し一つ一つ潰し指針書を見直し実践した。
11	非常に良い	サービス業(対個人)	31 名～50 名	筑豊	北九州エリアの拠点整備を目的に、社員数を増やしたため
12	よい	製造業(生産財)	0 名～5 名	筑豊	客先からの受注が増えたから
13	よい	製造業(生産財)	6 名～10 名	北九州	取引先の増加。
14	よい	製造業(生産財)	11 名～20 名	北九州	緊急事態宣言があけて社会が動き出したため。
15	よい	製造業(生産財)	31 名～50 名	県南	鋼材・燃料・消費財の価格が向上しているが、なかなか販売価格に転嫁できなかった。ただし、働き方改革等で全体的に製造力が低下しているため、仕事自体はある。
16	よい	製造業(生産財)	31 名～50 名	福岡	全体的に製造業の受注が増えています。
17	よい	製造業(生産財)	51 名～100 名	県南	展示会出展・SNS を使用した PR・ダイレクトメールでの営業、その他各種営業手法を重層

					化したことによる。
18	よい	製造業(消費財)	21名～30名	県南	新規取引先が増えた
19	よい	建設業(建築)	0名～5名	県南	分からない
20	よい	建設業(建築)	0名～5名	福岡	業界で職人の不足。
21	よい	建設業(建築)	6名～10名	県南	新築の建物が増加している。
22	よい	建設業(建築)	6名～10名	北九州	手間請けの仕事が多くなり、忙しいが売り上げ、利益共横ばいになっている
23	よい	建設業(建築)	11名～20名	県南	公共工事と災害関連工事受注のため。
24	よい	建設業(建築)	11名～20名	北九州	今年の4月に新入社員を2名入れて会社内が活気づき、全体的に明るく、また、会社として利益が出たら社員に還元するように方針転換したことが良かった。
25	よい	建設業(設備)	6名～10名	福岡	クジ運が良かった。
26	よい	建設業(設備)	6名～10名	福岡	公共工事、民間工事受注増加
27	よい	商業・流通業	31名～50名	福岡	コロナ禍においての高在宅率や健康に対する意識の向上が考えられる
28	よい	商業・流通業	51名～100名	筑豊	トヨタ自動車九州より向上設置のLED受注。製造会社よりライン自動化受注。
29	よい	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	コロナが弱まって動きが出てきた。
30	よい	サービス業(対事業所)	0名～5名	北九州	大型受注
31	よい	サービス業(対事業所)	6名～10名	福岡	コロナ緩和。
32	よい	サービス業(対事業所)	6名～10名	福岡	営業活動がうまくいった
33	よい	サービス業(対事業所)	6名～10名	福岡	コロナが少し落ち着いた為。
34	よい	サービス業(対事業所)	11名～20名	福岡	マンション及び住宅の販売価格が上がり続けているにも拘わらず販売が好調で、新規開発案件の仕事が多く入っています。コロナ渦でも順調な理由は超低金利の住宅ローンが影響していると思われます。
35	よい	サービス業(対事業所)	21名～30名	福岡	コロナ前からの、予定通り。
36	よい	サービス業(対事業所)	51名～100名	福岡	東北・関東の拠点は今までは別会社でしたが、6月に吸収合併しており、社員の異動を通して営業の強化を図っており、徐々に効果も出ている。

37	よい	サービス業(対事業所)	51名～100名	福岡	営業努力
38	よい	サービス業(対事業所)	100名以上	福岡	既存得意先との関係がうまく維持できたため。
39	よい	サービス業(対事業所)	100名以上	福岡	新規顧客開拓を恒常的に進めている
40	よい	サービス業(対事業所)	100名以上	福岡	新型コロナが落ち着いてきた。
41	よい	サービス業(対個人)	0名～5名	県南	コロナ禍の中、不動産業は資材等の口頭により今後厳しくなる。
42	よい	サービス業(対個人)	0名～5名	県南	新店舗 Open
43	よい	サービス業(対個人)	0名～5名	筑豊	現在顧客のニーズの掘り起こし
44	よい	サービス業(対個人)	0名～5名	福岡	事業内容の拡充
45	よい	サービス業(対個人)	6名～10名	筑豊	新商品販売による売上増
46	よい	サービス業(対個人)	11名～20名	福岡	好・不況の影響を受けにくい。
47	よい	サービス業(対個人)	21名～30名	北九州	営業活動を始めた為
48	よい	サービス業(対個人)	31名～50名	筑豊	顧客数の上昇による
49	普通	製造業(生産財)	0名～5名	県南	新型コロナが落ち着いて経済が回復している兆し
50	普通	製造業(生産財)	0名～5名	北九州	取引先が一社の為、変化ありません。
51	普通	製造業(生産財)	11名～20名	福岡	9月～10月に特需があり、その分で落ちた文を補填できた。
52	普通	製造業(消費財)	0名～5名	福岡	原材料、仕入れ品の値上げ、品不足。
53	普通	製造業(消費財)	21名～30名	福岡	コロナによる影響。
54	普通	製造業(消費財)	31名～50名	県南	顧客の中で、一部の業種で生産量が回復してきている
55	普通	製造業(消費財)	31名～50名	福岡	営業体制を構築し直し、顧客対応を強化したため。
56	普通	建設業(建築)	0名～5名	県南	材料費の高騰
57	普通	建設業(建築)	0名～5名	福岡	木材、建材の高騰による受注控え。
58	普通	建設業(建築)	0名～5名	福岡	開業2年目で、1年目よりは仕事が増えました。
59	普通	建設業(建築)	6名～10名	北九州	特になし
60	普通	建設業(土木)	11名～20名	福岡	通年通り

61	普通	建設業(土木)	21名～30名	県南	特になし
62	普通	建設業(土木)	21名～30名	福岡	原材料の値上げ、人件費、時間外手当の上昇。
63	普通	建設業(土木)	21名～30名	福岡	営業活動に力を入れました。
64	普通	建設業(設備)	0名～5名	福岡	安定した仕事の受注あり。
65	普通	建設業(設備)	0名～5名	福岡	結果的にはプラス、マイナスゼロだけど物価上昇した分だけ赤字
66	普通	建設業(設備)	6名～10名	福岡	固定客が多い保守管理があるので
67	普通	建設業(設備)	21名～30名	県南	メーカーからの資材納入期日が明確でない
68	普通	商業・流通業	0名～5名	福岡	新商品の開発・販売による売上増加
69	普通	商業・流通業	6名～10名	福岡	コロナの影響と材料値上り
70	普通	商業・流通業	11名～20名	福岡県外	少しコロナの影響が薄れてきた
71	普通	商業・流通業	31名～50名	筑豊	原油価格の影響。
72	普通	商業・流通業	31名～50名	福岡	昨年のコロナで売上げが上がったが、今年は例年並み。
73	普通	商業・流通業	31名～50名	福岡	前年同期は大型案件があったため売上は大幅減少した(元々利益がない案件だったので、利益は減少なし)。半導体部品の遅れにより、機械等の受注後納期が遅れ、未定の為、新規受注が減少している。
74	普通	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡県外	合併により売上げも経費も増加。
75	普通	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡県外	営業活動の休止
76	普通	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	去年がコロナの影響で下がっていたので。
77	普通	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	開業したばかりで、紹介によってお客様が増えた
78	普通	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	官公庁、民間とも大きな動きなし。
79	普通	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	昨年の売上が良すぎた(通常に比べて)。

80	普通	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	大きな取引もなく通常業務であった。
81	普通	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	コロナの影響大。
82	普通	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	新しい顧客が増えない
83	普通	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	営業努力不足
84	普通	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	既存事業の拡大
85	普通	サービス業(対事業所)	11名～20名	県南	新型コロナ感染が経済に与えた影響が少なかった。
86	普通	サービス業(対事業所)	11名～20名	福岡	経費の見直し、新規取引先の獲得
87	普通	サービス業(対事業所)	11名～20名	福岡	消費税免税事業者となったため。
88	普通	サービス業(対事業所)	31名～50名	福岡	コロナが収まってきたので、売り上げが下がりました。
89	普通	サービス業(対個人)	0名～5名	福岡	地域密着型に変更しているため。
90	普通	サービス業(対個人)	0名～5名	福岡	会員制のためコロナ等の影響はなく、従業員が増えたので売上はやや増加。補助金の活用で広告費等経費が増えたため利益はやや減少
91	普通	サービス業(対個人)	0名～5名	福岡	8月9月中止の仕事が10月に入ってきた結果
92	普通	サービス業(対個人)	0名～5名	福岡	スタッフの人数が変わらない為。
93	普通	サービス業(対個人)	0名～5名	北九州	コロナ禍で
94	普通	サービス業(対個人)	0名～5名	北九州	出店や、お客様訪問、店舗での催事が出来なかったため。
95	普通	サービス業(対個人)	0名～5名	北九州	何もしていないから。
96	普通	サービス業(対個人)	6名～10名	筑豊	ほぼ整備は横ばいですが、少量販売は減少。
97	普通	サービス業(対個人)	6名～10名	筑豊	緊急事態宣言が解除されて、自粛の反動と考えます。
98	普通	サービス業(対個人)	6名～10名	福岡	コロナ禍を気にしない人が増えた
99	普通	サービス業(対個人)	6名～10名	福岡	取引先からの受注減はあったが紹介やHP等での新規の仕事もきたので横ばい状態
100	普通	サービス業(対個人)	11名～20名	福岡	不明
101	普通	サービス業(対個人)	11名～20名	福岡	景気動向に左右されない！
102	普通	サービス業(対個人)	21名～30名	筑豊	コロナのこの時期なので、これでも良い方だと思います。

103	普通	サービス業(対個人)	21名～30名	北九州	新規事業を始めたため
104	普通	サービス業(対個人)	31名～50名	福岡	利用者様が3人～4人入院したため。
105	普通	サービス業(対個人)	31名～50名	福岡	大型案件の受注があったため
106	普通	サービス業(対個人)	100名以上	福岡	コロナ禍で対面営業がまだまだ戻らず、通信販売に負けている。(生命保険)
107	悪い	製造業(生産財)	0名～5名	北九州	警備会社向けの LED 表示器の販売が落ち込む。コロナでイベント等が激減したため、自ずとイベントに要する警備も減少。イベント警備にて使用する LED 表示器需要も減少。
108	悪い	製造業(生産財)	6名～10名	福岡	材料の高騰、コロナの遅れての影響
109	悪い	製造業(生産財)	11名～20名	福岡	原料費高騰
110	悪い	製造業(生産財)	11名～20名	福岡	ほぼ 100%下請けでやっているの、親会社の業績(または営業力)によって左右されている。また、コロナ過の中で土木・建設業にも影響が出ていることが原因にもなっている。
111	悪い	製造業(生産財)	11名～20名	北九州	顧客にて新規の工事案件が減少している。
112	悪い	製造業(生産財)	21名～30名	県南	昨今、半導体などに限らず様々な物が不足しており、それに起因して機械の製造が止まったり遅延したりといったケースが多い。その結果、受注の伸びが鈍かった所に原材料の高騰もあり、利益が伸びていない。
113	悪い	製造業(生産財)	51名～100名	福岡	景況の影響(コロナ含む)
114	悪い	製造業(生産財)	100名以上	北九州	発注の減少。
115	悪い	製造業(消費財)	0名～5名	福岡	すべてに発注がない。
116	悪い	製造業(消費財)	11名～20名	福岡	コロナ禍での消費の落ち込み
117	悪い	製造業(消費財)	11名～20名	福岡	コロナは落ち着いたが、購買意欲は戻っていないので、悪い現状が続いている。
118	悪い	製造業(消費財)	21名～30名	福岡	前期と同様に業界の景気回復に至らない。
119	悪い	製造業(消費財)	21名～30名	福岡	コロナの影響
120	悪い	製造業(消費財)	51名～100名	福岡	大口ユーザーの売上大幅減
121	悪い	建設業(建築)	11名～20名	福岡	資材高騰、価格競争により新規受注が出来なかった
122	悪い	建設業(建築)	51名～100名	福岡	価格競争

123	悪い	建設業(土木)	0名～5名	福岡	労働力(現場作業員)の不足
124	悪い	建設業(設備)	0名～5名	福岡	コロナにより売上げ下がった。
125	悪い	建設業(設備)	31名～50名	筑豊	今期は、大型の民間投資物件がなく、大幅に売り上げ減とそれに伴う利益減に見舞われた。しかし、11月に当社の一年間の売上に相当する大型の官庁物件が受注できたのでこのような結果となった。この大型物件は今期の売上にはならず、来期の売上となる。
126	悪い	建設業(設備)	51名～100名	福岡	受注は予定通りで推移しているが、新型コロナウイルス感染により昨年前半に受注ができなかった影響が現在も続いているため。
127	悪い	商業・流通業	0名～5名	県南	コロナ感染者数が少なくなってきたので、得意先飲食店の状況が改善された為、納品数が増加しつつある。また、新規出店されたところがある。
128	悪い	商業・流通業	0名～5名	福岡	コロナで対面販売が出来づらいので
129	悪い	商業・流通業	0名～5名	福岡	飲食店や催事業者の受注が減少した。
130	悪い	商業・流通業	6名～10名	福岡	仕入高を売価に添加できない。
131	悪い	商業・流通業	11名～20名	筑豊	市場環境の変化に対応できていない。競争力の低下
132	悪い	商業・流通業	11名～20名	福岡	コロナによる消費の低下だけでなく、法規制の強化や競合他社の増加なども原因だと考える
133	悪い	商業・流通業	11名～20名	福岡	コロナで設備投資が減ったため。
134	悪い	商業・流通業	11名～20名	北九州	コロナ禍の影響で民間設備投資減少。
135	悪い	商業・流通業	31名～50名	福岡	需要減少、消費の冷え込み
136	悪い	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	福岡「避蜜」の旅キャンペーンの為。
137	悪い	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	コロナの影響による発注・業務遂行の遅れ
138	悪い	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	トヨタグループのラジエーター純正価格が大幅に下がり純正部品の使用が増えて、社外部品の利用が激減の為、トヨタ系ディーラー受注8割以上減っている。今年秋の国内メーカーの価格改定により弊社販売価格を上げる事で、輸入部品との価格差が大きくなり受注が減っている。

139	悪い	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	少しお客様(既存・新規共に)が戻ってきた。
140	悪い	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	設備、機器等の老朽化
141	悪い	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	特にデパート関係の売り上げ減少
142	悪い	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	コロナ禍によるイベント控え、官公庁消耗品購入予算減少等
143	悪い	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	大手取引先の受注が減少したため。
144	悪い	サービス業(対事業所)	6名～10名	県南	コロナ不況
145	悪い	サービス業(対事業所)	11名～20名	筑豊	コロナによる需要減、意識と行動パターンの変容。長期に渡る商談ができない状況による停滞。
146	悪い	サービス業(対事業所)	11名～20名	福岡	コロナ
147	悪い	サービス業(対事業所)	11名～20名	福岡	利益が出せるところまで追いついていない。緊急事態宣言が解除された10月初旬はほとんど動きが見られなかった。また、年末の繁盛期を迎えるのにも関わらず、様子見の会社が多いように感じた。新規に関しては、営業が積極的なアプローチがし辛い空気感がある。
148	悪い	サービス業(対事業所)	11名～20名	北九州	コロナの影響で正常値に戻らない。
149	悪い	サービス業(対事業所)	21名～30名	福岡	営業活動の低下
150	悪い	サービス業(対事業所)	21名～30名	福岡	半導体不足で、車の生産が減少し、車両登録の仕事が減少した。
151	悪い	サービス業(対事業所)	51名～100名	県南	経費増によるもの。(燃料代・人件費等)
152	悪い	サービス業(対事業所)	51名～100名	福岡	今年度に入り、一昨年からの営業により新規に受注ができた。
153	悪い	サービス業(対事業所)	100名以上	福岡	計画どおり
154	悪い	サービス業(対事業所)	100名以上	福岡	例年通りの予算のため
155	悪い	サービス業(対個人)	0名～5名	福岡	対人、対面の事業は厳しですね。
156	悪い	サービス業(対個人)	0名～5名	福岡	コロナ禍により、対象となる障害者の動きが止まっている。
157	悪い	サービス業(対個人)	0名～5名	北九州	コロナの状況
158	悪い	サービス業(対個人)	6名～10名	福岡	新規のお客様との接点が作れなかった。
159	悪い	サービス業(対個人)	6名～10名	福岡	消費者の買い控え

160	悪い	サービス業(対個人)	6名～10名	福岡	コロナの影響で清掃の業務依頼が減った(内清掃に切り替えた所が多い)。
161	悪い	サービス業(対個人)	11名～20名	県南	新規出店による経費の増加。
162	悪い	サービス業(対個人)	21名～30名	筑豊	人動の減少のため。
163	悪い	サービス業(対個人)	21名～30名	福岡	コロナ
164	悪い	サービス業(対個人)	21名～30名	福岡	競合他社によるもの。
165	悪い	サービス業(対個人)	31名～50名	福岡	コロナの影響
166	悪い	サービス業(対個人)	31名～50名	北九州	コロナの影響。
167	非常に悪い	製造業(生産財)	0名～5名	北九州	新規顧客の増加
168	非常に悪い	建設業(設備)	0名～5名	福岡	半導体不足の影響
169	非常に悪い	商業・流通業	51名～100名	福岡	輸入品は、円安、原材料の高騰により原価が値上がりし、値上げ交渉が厳しい状況
170	非常に悪い	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	コロナウイルスの影響。
171	非常に悪い	サービス業(対個人)	0名～5名	福岡	冠婚葬祭の行事が激減している
172	非常に悪い	サービス業(対個人)	0名～5名	福岡	//
173	非常に悪い	サービス業(対個人)	0名～5名	福岡	1年間売上1億円目標に対し、ほぼh仕事ができませんでした
174	非常に悪い	サービス業(対個人)	11名～20名	福岡	コロナのため
175	-	サービス業(対事業所)	0名～5名	福岡	既存顧客からの新規顧客の紹介が増えた為。
176	-	サービス業(対個人)	0名～5名	福岡	創業から3年目で3周年記念イベントを行ったこと。